

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市西区玉池町255番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2370400992-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年5月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出はままならないものの、ホーム周辺の散歩については継続して行っている。外へでる機会は減ったが、庭にでると季節を感じて頂けるような環境になっており自由に出て頂く事ができるようになっている。また、冬場1階リビングに暖炉が設置されており、自然なぬくもりを感じ安らぐ空間になっている。
ホームの中の生活についても利用者様が役割をもち一日のなかでいきいきとメリハリある生活ができるような時間を持って頂ける様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新年度から、「原点回帰」をホームの行動目標として掲げ、利用者が自分らしい生活を送れるように取り組んでいる。利用者一人ひとりの状況を把握し、個々の状況にあった支援に努めている。
コロナ禍収束が期待できる現在、ホームが提供する支援を検討し、ホーム理念・行動目標に沿った新たな支援を提供できるように努めている。地域との交流や外出支援の再開など、まだ制約は残っているものの前向きな取組みがなされている。
ホームの利用者に提供するサービスについては、面会時の報告や請求書とともに送られる、職員からの便りや写真にて家族に知らされている。家族アンケートでは、それらに対する感謝の声が多数寄せられており、家族の満足度は高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の見えるところにあいの理念をいつでも見る事ができるようにしており、入職した際のオリエンテーションや職員ミーティングの際にも理念を念頭におき話をできるようにしており共有されている。	ホームの理念を事務所内に掲示し、ミーティング等で話をする機会を設けている。今年度の目標として「原点回帰」を掲げ、提供しているサービスの検証・検討を行っている。	新たな年度目標の設定もあり、達成に向けた前向きな取組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為できないこともあるものの、ホーム周辺で会う方には挨拶を行い、回覧板もかわらず回しており少ないながらもできることは継続して行っている。	コロナ禍により、多くの制約を受けてきたが、ホームとして出来る範囲での取組みを行ってきた。「井戸端会」の8月以降の再開予定もあり、コロナ禍収束後の新たな取組みへの検討も行われている。	外出支援も含め、コロナ禍収束後の積極的な取組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍までは事業所主催のうたごえ喫茶やいどばた会などを行うことによりホームで生活されている方と交流を図って頂いていたが、コロナ禍でできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については継続されているが、コロナ禍のため予定している2か月に1度の開催はできていない。地域の現状や事業所の取り組みについては意見交換はできている。	コロナ禍により書面での開催となっていた運営推進会議が、対面開催として再開されている。情報交換・意見交換の場として活用されており、地域包括支援センターや地域からの参加も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との関わりはないものの、運営推進会議を通していきいき支援センターの方や、社会福祉協議会の方と情報交換をすることができる関係性はできている。	地域包括支援センターや社会福祉協議会等と、情報交換や意見交換が行われている。行政担当者とは、必要に応じ電話やメール等でのやり取りがあり、ホーム運営に支障はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中については施錠することなく過ごして頂いている。 拘束については勉強会で取り上げ、ミーティングで虐待とともに毎月のケアの振り返りを行っている。	身体拘束をしないケアに努めており、勉強会でテーマに取り上げて学ぶ機会を設けている。さらに、毎月行われるミーティング時に、「提供するケア」について振り返りを行い、職員間で事例検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会とともに、毎月のミーティングでは虐待、拘束についての振り返りを行っている。また、法人としてメンタルヘルスの研修を実施し感情コントロールについても継続して講義を行うことにより常に危機意識をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い、学ぶ機会をもつようにしている。制度についての理解はあまりできていないが、施設での権利侵害には意識を持って取り組まれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明を行い、疑問についてもその都度対応している。ケアプラン更新の際にも、ご家族様への説明を行い、終末期については入居の段階でも話をさせて頂いている。日頃から関わりを良好に保てているおかげで、退去時等にも円滑に進められている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前は年2回の家族会があり意見交換をする場があったものの、現在はコロナの為できていない。面会時には話を聞き何かあればその都度改善できるように努めている。	家族面会を条件付きで認め、意見や要望を把握する機会としている。コロナ禍で中止している家族会も、再開に向けて検討している。毎月ホーム便りを送付し、利用者の様子を写真も添えて報告している。	コロナ禍で中止となっている家族会の早期の再開が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングとスタッフミーティングにて意見を発言できる場がある。面談を定期的に行いながら話しやすい環境をつくるようにしている。	職員の意見や要望・提案は、定期的なミーティングで聞いている。面談が定期的実施されているが、管理者と職員は日常的にも話をすることが出来る。把握した意見や提案を、ホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分とはいえないものの、個別面談を行う環境をつくっており給与が上がった職員もいるが、十分ではないところもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会については定期的に行われている。研修の内容についても新人研修から管理者研修、リーダー研修と幅広く設定されており個人の能力に応じた研修に参加をしている。日々の実践の場ではOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は他のグループホームの方々とコンソーシアムを行っていたものの、コロナでできていない。法人内での研修については行っておりグループ内の他の事業所との交流には多くはないが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたのちには個別記録だけではなく情報共有メモにてご本人様の訴えやADL等についてこまかく記載しご本人様との関係をきずくことができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居したから終わりではなく、ご家族様も一緒にできることを相談しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の様子を見極め必要なことを提供させて頂いている。また、法人内の医療体制も整え必要に応じて対応して頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に力をいれ自分でできることはできるだけご自身で行って頂き、できないところを支援するようにしている。介護している立場の意識が強くなるよう定期的にミーティングや勉強会で再確認している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や面会時にこまめに報告し、必要なことについてはその都度相談させて頂いている。ご家族様ありきでの支援であることをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで難しいが、馴染の方が面会にみえた際には会話をして頂くこともある。場所については外出自体ができておらず支援できていない。	訪問者との面会は、コロナ禍により制約があるが可能である。馴染みの場所の支援は行っていないが、利用者の趣味や習慣の継続を支援している。コロナ禍収束後に、馴染みの支援を再開予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルに発展しないようにスタッフがある程度関係性を把握した上で座る席にも注意しながら過ごして頂いている。また、孤立しそうな方が見えた際にはスタッフが間に入り寄り添うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くはないものの、以前入居されていた方の娘様からは今でもお手紙などを頂くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるかぎりご本人様やご家族様より希望を聞き出せるようにしながら、ご本人様にとって一番よいであろうことを選択するように努めている。	利用者の思いや意向は、日常の関わりの中で把握に努めている。基本的には入居時のアセスメントに沿った支援を提供し、入居後も本人本位に検討し、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に『暮らしの様子』をご家族様に記入をお願いし記入して頂いており、入居後の様子も含めて情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化をしっかりと把握するとともに、記録に残すことにより情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひとりひとり顔のみえる介護計画作成に向けご家族様からの情報やホームでの情報をプランに活かすことができるようにしている。プラン見直し時期にはモニタリングを行い情報収集を継続して行っている。	介護計画は6ヶ月・1年の更新である。6ヶ月毎にモニタリングを行い、利用者の実情に沿った介護計画を作成している。年度目標に「原点回帰」を掲げ、介護計画に利用者の本来の姿を反映させようとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入にて職員間の情報共有を行うとともに、重要性のあるものについては口頭で申し送りにて継続してつたえるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設や同グループ内のクリニックと連携を図っており臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近場の散歩のみで、地域資源を把握し協働へは至っていない。今後、買い物や以前通っていた図書館への外出ができるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる方は継続して受診をされている方もいるが、事業所指定のかかりつけ医の往診対応の方も増え、必要に応じてFAX受診することもある。	月に2回協力医の訪問診療があり、法人内の看護師との連携も取れている。急ぎの受診にも協力医の対応があり、利用者は適切な医療を受けられる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームに看護師はいないが、医療連携にて必要に応じて看護師より指示を仰いでいる。また、定期的な情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるようご家族様への働きかけと、ホームでできる対応について病院と情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とはその都度話し合いを行っている。職員のターミナルケアにおける方向性を統一できるようにミーティングで話し合いを行い振り返りも行うようにしている。	入居時に重度化・終末期について説明を行い、必要に応じて都度話し合い、方針を決定している。毎年1回ターミナルケアについての研修を行い、職員は理解を深めている。看取り実施後に話し合いの機会を持ち、振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会についても行っているものの、一部職員については不足している為、今後の研修等行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震の避難訓練は定期的に行っている。また、以前は消防署や消防団の方から消火活動について指導を受けていたが、コロナ禍のためできておらず、運営推進会議での消防団からの助言に留まっている。	ホームでは、3ヶ月毎に想定を変えて避難訓練を行っている。コロナ禍により、消防署等から直接の指導は得られていないが、地域の消防団とは交流を持っている。停電対策として発電機を導入した。	発電機は職員の誰もが使用できることが望ましく、何がどのくらい使えるか、事前に把握しておくことも必要であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮しながら言葉かけを行っているものの、まだまだ注意が必要。	利用者との日々の関わりの中で、尊厳やプライバシー等に配慮しながら対応している。職員研修や勉強会が、テーマを変えながら定期的に行われており、職員の理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な利用者様に対しては希望通りになるように支援しているものの、訴えがでない方については職員目線になってしまいがちである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われできないこともあるものの、意識して取り組むことによって以前と比べると利用者様中心の生活になってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選ぶことができる利用者様については自ら洋服を選んで頂くが、気にいった洋服になり同じ洋服を続けて着られる方には同じ洋服にならないように支援している。男性の方についてはひげそりを毎日できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることは一緒に行って頂き、食べる楽しみを感じて頂けるように食事の準備から片付けまで行って頂いているが、総ての利用者様とはいえず、偏ってしまっている。	利用者が楽しんで食事が出来るよう、利用者の残存能力に合わせて、食事の準備や片付けを職員とともにしている。メニューは職員が作成しており、季節に因んだ行事のメニューの提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った食事量を提供し、水分量についても記録をつけて把握している。また、食事量や水分量が少ない方にはジュースなど飲んで頂けるものも提供することもある。トロミやペースト食、本人の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自己にて行って頂いているが、無理な方は支援している。訪問歯科とも連携を図り助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し声掛けのタイミングを計っており、トイレでの排泄を促している。また、気になることについてはミーティングで話し合いを行い職員間で情報を共有するようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、トイレでの排泄を基本に個々に対応している。排泄支援を行うときは、プライバシーや羞恥心に配慮して対応しており、支援方法についてはマニュアルもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルト、牛乳などできるかぎり摂取して頂き自然に排泄ができるようにしているものの、それでもダメな時にはかかりつけ医と相談し内服薬を服用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂いているが、声掛けし無理強いすることなく入って頂いている。希望があれば毎日でも入って頂いている。ふたり介助の方については安全面とご本人様の体力を考慮して支援している。	1日おきの入浴機会があり、利用者の要望があれば毎日の入浴も可能である。入浴の可否は利用者の体調や意向により決めており、2名介助で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が強い時や身体の傾きがある際には居室で休んで頂くこともある。夜間についても入眠できるように支援しており、日中の活動量を増やして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬をいれる袋に薬の名前や効果について記載しているが、更新されていないこともある。薬情報についてはファイリングしており確認可能になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコやお酒等希望については入居後継続して希望時に提供しており、また、元美容師の方にはヘアセットをお願いし継続的に行っている。日常生活のなかではできる家事等についても可能なかぎり行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍に為外出はできていないものの、日常的に近くの公園への散歩や中庭へでることは行っている。体調面や状態により総ての利用者とはいはず。	コロナ禍により外出は控えてきたが、近隣への散歩や屋外に出たの外気浴は行ってきた。現在では外出支援を再開し、買い物や外食の機会を提供している。今後の感染状況を見ながら、コロナ禍以前のような支援を提供していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人でお金を所持している利用者はいないが、ご本人やご家族様の責任のもとお金の所持は自由にして頂いてる。コロナ禍で買物に行くことができず商品を見て使う機会もなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物を頂いた際などお礼の電話やご家族様からの電話を取り次ぐことはあるものの、自ら電話したいや手紙を書きたいとの希望は聞かれなくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭があり季節を感じるができる場所があると同時に、季節に合わせた飾り物を利用者様と一緒に作成・飾りつけを行い季節感を演出している。ただトイレの扉が開きっぱなしになっていることもある。	居間やトイレなどの共有空間は衛生保持を心がけ、夜間スタッフが消毒を行っている。季節を感じられる飾りや利用者の作品を掲示し、落ち着いて過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりに合った席に座って頂き、トラブルにならないように工夫しながら過ごしやすい居場所を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時点で自宅で使用しているものを持ってきて頂き、なるべく使い慣れた物を使用して頂くようにしている。また、床で過ごして頂く方についてはジョイントマットを敷いて痛みや冷たさを取り除くようにしている。	家具や調度品の持ち込みは自由で、利用者が使い慣れたものを使用している。思い思いの飾りや写真があり、居心地の良い居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様へ安心安全に生活して頂けるように支援しており、階段を使用できる方には積極的に階段を使用して頂いているが、まだ「できないだろう」と手を出していることもあり不十分と思われる点もある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市西区玉池町255番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2370400992-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年5月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出はままならないものの、ホーム周辺の散歩については継続して行っている。外へでる機会は減ったが、庭にでると季節を感じて頂けるような環境になっており自由に出て頂く事ができるようになっている。また、冬場1階リビングに暖炉が設置されており、自然なぬくもりを感じ安らぐ空間になっている。ホームの中の生活についても利用者様が役割をもち一日のなかでいきいきとメリハリある生活ができるような時間を持って頂ける様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の見えるところにあいりの理念をいつでも見る事ができるようにしており、入職した際のオリエンテーションや職員ミーティングの際にも理念を念頭におき話をするようにしており共有されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為できないこともあるものの、ホーム周辺で会う方には挨拶を行い、回覧板もかわらず回しており少ないながらもできることは継続して行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍までは事業所主催のうたごえ喫茶やいどばた会などを行うことによりホームで生活されている方と交流を図って頂いていたが、コロナ禍でできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については継続されているが、コロナ禍のため予定している2か月に1度の開催はできていない。地域の現状や事業所の取り組みについては意見交換はできている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との関わりはないものの、運営推進会議を通していきいき支援センターの方や、社会福祉協議会の方と情報交換をすることができる関係性はできている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中については施錠することなく過ごして頂いている。 拘束については勉強会で取り上げ、ミーティングで虐待とともに毎月のケアの振り返りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会とともに、毎月のミーティングでは虐待、拘束についての振り返りを行っている。また、法人としてメンタルヘルスの研修を実施し感情コントロールについても継続して講義を行うことにより常に危機意識をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い、学ぶ機会をもつようになっている。制度についての理解はあまりできていないが、施設での権利侵害には意識を持って取り組まれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明を行い、疑問についてもその都度対応している。ケアプラン更新の際にも、ご家族様への説明を行い、終末期については入居の段階でも話をさせて頂いている。日頃から関わりを良好に保てているおかげで、退去時等にも円滑に進められている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前は年2回の家族会があり意見交換をする場があったものの、現在はコロナの為できていない。面会時には話を聞き何かあればその都度改善できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングとスタッフミーティングにて意見を発言できる場がある。面談を定期的に行いながら話しやすい環境をつくるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分とはいえないものの、個別面談を行う環境をつくっており給与が上がった職員もいるが、十分ではないところもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会については定期的に行われている。研修の内容についても新人研修から管理者研修、リーダー研修と幅広く設定されており個人の能力に応じた研修に参加をしている。日々の実践の場ではOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は他のグループホームの方々とコンソーシアムを行っていたものの、コロナでできていない。法人内での研修については行っておりグループ内の他の事業所との交流には多くはないが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたのちには個別記録だけではなく情報共有メモにてご本人様の訴えやADL等についてこまかく記載しご本人様との関係をきずくことができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居したから終わりではなく、ご家族様も一緒にできることを相談しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の様子を見極め必要なことを提供させて頂いている。また、法人内の医療体制も整え必要に応じて対応して頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に力をいれ自分でできることはできるだけご自身で行って頂き、できないところを支援するようにしている。介護している立場の意識が強くなるよう定期的にミーティングや勉強会で再確認している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や面会時にこまめに報告し、必要なことについてはその都度相談させて頂いている。ご家族様ありきでの支援であることをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで難しいが、馴染の方が面会にみえた際には会話をさせて頂くこともある。場所については外出自体ができておらず支援できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルに発展しないようにスタッフがある程度関係性を把握した上で座る席にも注意しながら過ごして頂いている。また、孤立しそうな方が見えた際にはスタッフが間に入り寄り添うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くはないものの、以前入居されていた方の娘様からは今でもお手紙などを頂くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるかぎりご本人様やご家族様より希望を聞き出せるようにしながら、ご本人様にとって一番よいであろうことを選択するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に『暮らしの様子』をご家族様に記入をお願いし記入して頂いており、入居後の様子も含めて情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化をしっかりと把握するとともに、記録に残すことにより情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひとりひとり顔のみえる介護計画作成に向けご家族様からの情報やホームでの情報をプランに活かすことができるようにしている。プラン見直し時期にはモニタリングを行い情報収集を継続して行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入にて職員間の情報共有を行うとともに、重要性のあるものについては口頭で申し送りにて継続してつたえるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設や同グループ内のクリニックと連携を図っており臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近場の散歩のみで、地域資源を把握し協働へは至っていない。今後、買い物や以前通っていた図書館への外出ができるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる方は継続して受診をされている方もいるが、事業所指定のかかりつけ医の往診対応の方も増え、必要に応じてFAX受診することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームに看護師はいないが、医療連携にて必要に応じて看護師より指示を仰いでいる。また、定期的な情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるようご家族様への働きかけと、ホームでできる対応について病院と情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とはその都度話し合いを行っている。職員のターミナルケアにおける方向性を統一できるようにミーティングで話し合いを行い振り返りも行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会についても行っているものの、一部職員については不足している為、今後の研修等行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震の避難訓練は定期的に行っている。また、以前は消防署や消防団の方から消火活動について指導を受けていたが、コロナ禍のためできておらず、運営推進会議での消防団からの助言に留まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮しながら言葉かけを行っているものの、まだまだ注意が必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な利用者様に対しては希望通りになるように支援しているものの、訴えがでない方については職員目線になってしまいがちである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われできないこともあるものの、意識して取り組むことによって以前と比べると利用者様中心の生活になってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選ぶことができる利用者様については自ら洋服を選んで頂くが、気にいった洋服になり同じ洋服を続けて着られる方には同じ洋服にならないように支援している。男性の方についてはひげそりを毎日できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることは一緒に行き、食べる楽しみを感じて頂けるように食事の準備から片付けまで行って頂いているが、総ての利用者様とはいえず、偏ってしまっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った食事量を提供し、水分量についても記録をつけて把握している。また、食事量や水分量が少ない方にはジュースなど飲んで頂けるものも提供することもある。トロミやペースト食、本人の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自己にて行って頂いているが、無理な方は支援している。訪問歯科とも連携を図り助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し声掛けのタイミングを計っており、トイレでの排泄を促している。また、気になることについてはミーティングで話し合いを行い職員間で情報を共有するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルト、牛乳などできるかぎり摂取して頂き自然に排泄ができるようにしているものの、それでもダメな時にはかかりつけ医と相談し内服薬を服用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂いているが、声掛けし無理強いすることなく入って頂いている。希望があれば毎日でも入って頂いている。ふたり介助の方については安全面とご本人様の体力を考慮して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が強い時や身体の傾きがある際には居室で休んで頂くこともある。夜間についても入眠できるように支援しており、日中の活動量を増やして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬をいれる袋に薬の名前や効果について記載しているが、更新されていないこともある。薬情報についてはファイリングしており確認可能になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコやお酒等希望については入居後継続して希望時に提供しており、また、元美容師の方にはヘアセットをお願いし継続的に行って頂いている。日常生活のなかではできる家事等についても可能なかぎり行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に為外出はできていないものの、日常的に近くの公園への散歩や中庭へでることは行っている。体調面や状態により総ての利用者とはいかず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人でお金を所持している利用者はいないが、ご本人やご家族様の責任のもとお金の所持は自由にして頂いてる。コロナ禍で買物に行くことができず商品を見て使う機会もなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物を頂いた際などお礼の電話やご家族様からの電話を取り次ぐことはあるものの、自ら電話したいや手紙を書きたいとの希望は聞かれなくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭があり季節を感じるができる場所があると同時に、季節に合わせた飾り物を利用者様と一緒に作成・飾りつけを行い季節感を演出している。ただトイレの扉が開きっぱなしになっていることもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりに合った席に座って頂き、トラブルにならないように工夫しながら過ごしやすい居場所を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時点で自宅で使用しているものを持ってきて頂き、なるべく使い慣れた物を使用させて頂くようにしている。また、床で過ごして頂く方についてはジョイントマットを敷いて痛みや冷たさを取り除くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様へ安心安全に生活して頂けるように支援しており、階段を使用できる方には積極的に階段を使用させて頂いているが、まだ「できないだろう」と手を出していることもあり不十分と思われる点もある。		